

＼ 香川大学からつながる校友コミュニケーション /

Kadai SALON

香川大学校友会会報



Student Introduction

学生紹介

DRI教育は、
分野を超えた
興味関心の
「入り口」

造形・メディアデザインコース

田中 菜月

(創造工学部 1年)

卒業生紹介

KAGAWA
UNIVERSITY'S
ALUMNI

インフラ保守の
現場から地域を守る

株式会社四電工 高松営業所
配電技術センター

技術1課 技術2課
二宮 慧 久保田 萌

育てているのは、
「人と人を結ぶ」花

農業組合法人 香花園
代表理事
真鍋 佳亮



校友会は会員の皆さんが充実した 学生生活を過ごすために支援を行います。

食の支援や就職活動など、全学生を対象とした支援や

修学支援や海外留学支援などの個別支援を、香川大学と協力して実施しています。

01

学生生活支援・修学支援 /

食の支援

学生応援Dayを開催

食による生活支援を2回に分けて企画しました。

まず第一弾は、香川の食文化を楽しんでもらうため、1年生には「応援うどん」と、香川大学ゆかりの「希少糖(レアシュガースウィート)キャラメル」を提供しました。

全学年メニューである「応援カレー」は、ムスリムにも配慮したハラールカレーも提供しました。

続く第2弾は、当日にメニューがわかるお楽しみ企画として、ハヤシライスや牛丼を提供しました。また、11月10日【いい糖の日】には、「希少糖入りミニぜんざい」をふるまいました。

*食の支援の企画運営は、香川大学と香川大学生協が行い、必要な費用は校友会及び日本学生支援機構が負担しました。

02

学生生活支援・修学支援 /

令和4年度

学業優秀者表彰の

皆さんへ記念品を贈呈

各学部・研究科から推薦のあった、学業成績優秀者学長表彰を受けた53名の皆さんに、校友会からAmazonギフト券をお贈りしました。

03

学生生活支援・修学支援 /

コミュニケーション支援アプリ

「UDトークアプリ」を契約

聴覚障がいのある学生の修学支援として、会話の見える化アプリ「UDト

クアプリ」を年間契約しました。このアプリは、聴覚障がいのある学生が講義を受けるときに、話者の声をマイクを通して文字に変換し、ディスプレイに表示するものです。このデータをノートテイカーの学生が修正することで、授業の理解の支援を行います。

また、講義の先生の口元から話を読めるように、表情が見える透明マスクも提供しました。

04

学生生活支援・修学支援 /

抗原定性検査キットの

購入

保健管理センターに来所する学生に対応するため、昨年に引き続き、新型コロナウイルス抗原定性検査キットを購入し、保健管理センターに提供しました。

早期に感染の有無を判定することは、キャンパス内の感染拡大防止のためには、有効な手段です。

05

海外留学支援 /

協定校留学プログラム

参加者への支援

香川大学の学術交流協定校等(西オーストラリア大学、ブルネイ・ダルサラーム大学、プトラ・マレーシア大学)への留学プログラム参加者への支援を行いました(約30名)。

コロナ禍の影響で留学も難しい状況でしたが、今後は留学を希望する学生の増加が見込まれることから、留学支援を拡大していく予定です。

*支援の内容については、インターナショナルオフィスの審査により決定します。

06

就職活動支援 /

全学年の就活を応援!

WEB版「香川大学

就職手帳」制作を支援

「香川大学就職手帳2022」の制作を支援しました。

これは、キャリア支援センターが冊子で配布していた「就活手帳」を、新たにWEB版に作り直し、利便性を高めました。

コンテンツの一つである「キャリア支援ブック」には、全学年の学生が広く利用できるように、自己分析など就職活動の準備、実際の就職活動から内定まで、就活のポイントをわかりやすく紹介しています。

また、就職相談予約、求人票閲覧、インターンシップ、会社説明会情報など最新情報の閲覧ができる学内システムにアクセスできるので、就活のポータルとしても利用できます。

就職活動に向けて広く利用できるで、どの学年の方もぜひご利用ください。

07

課外活動・環境整備支援 /

バスケットボール

ゴールの修繕

第二体育館のバスケットゴールの点検を行ったところ、危険な箇所が見つかったため、4台の修繕を実施し、安全を確保しました。

これからは、授業や課外活動等で、安心してシュートできるようになりました。

01



02



03



06



08

課外活動・環境整備支援 /

校内美化の実施

幸町南グラウンド、ハンドボールコート、第一体育館、第二体育館、オリーブSTUDENTハウス各周辺環境整備を行いました。

施工業者が、夏の間に伸びた雑草を丁寧に除草し、授業や課外活動等に専念できるようにしました。

09

コロナ関連 /

新型コロナワクチン職域

接種会場で飲料水を提供

香川大学での第3回・第4回新型コロナワクチン接種の期間(2022年5月9日~18日、および12月16日~18日)、接種業務に携わっていただいた医師や看護師、事務職員等に、飲料水の提供を行いました。

08



10

その他 /

令和4年度

理事会の開催

令和4年度の校友会理事会を6月30日に開催しました(WEBによる遠隔会議)。

覧会長の進行により、「役員等の改選」、「令和3年度事業報告及び収支決算」、「令和4年度事業計画及び収支予算」について議題を審議し、了承されました。

最後に、設立から3年が経ち、学生を支援する体制が整ってきていること、今後も活発なご意見をいただきたい旨会長から発言があり閉会しました。

10



香川大学の最新情報をご紹介します。

01

瀬戸内国際芸術祭
2022公式イベント
瀬戸内仕事歌&
四国民話オペラ「二人奥方」公演



5月15日に、若井健司教授（「瀬戸内の伝統生活文化・芸術発信プロジェクト」代表）が芸術監督・演出を行い、四国村ミュージアム農村歌舞伎舞台にて【瀬戸内仕事歌&四国民話オペラ「二人奥方」】を公演しました。

瀬戸内地域に暮らす人たちの生活から生まれた様々な「瀬戸内仕事歌」には、石切り唄保存会、讃岐民謡保存会、桑山会宇多津社中及び土曜族の皆様と学生たちが参加し、その公演の背景として展示した郷土の仕事作業風景画の制作は、古草敦史教授が担当しました。

「四国民話オペラ「二人奥方」」とは、「きつねがなぜ四国にいないのか？」を裏づけるエピソードを描いた四国初のオペラ作品で、県内声楽家や、岡田知也教授、青山夕夏教授、東浦亜希子准教授、学生や卒業生、屋島中学校の生徒など多くの方が参加しました。

夕刻の公演では、西成典久教授と経済学部学生プロジェクト「TERASU」の学生が、会場に讃岐提灯を灯しました。

02

うまげな小豆島を感じてみまい
vol.3
小豆島の観光資源を
プロモーションする



「香川と都市圏の大学連携推進事業～かがわBridgeプロジェクト(KBP)～」短期プログラムとして、8月21日～24日(3泊4日)に、香川大学生5人と都市圏大学の学生14人(芝浦工業大4人、津田塾大学5人、東京農業大学5人)の19人が小豆島に滞在して、島の観光資源や魅力を発掘し、「訪れたくなる小豆島」を実現する観光プロモーションを考えるフィールドワーク型のプログラムに取り組みました。さらに瀬戸内国際芸術祭の夏会期において小豆島に訪れている観光客の動向を調査し、リピーターになる仕掛けや仕組みを考察しました。

プログラムの最後には、オンラインにてそれぞれの活動報告及び地域活性化や観光振興などにつながる事業をグループごとに提案するプレゼンテーションを実施しました。

03

瀬戸内海の
海洋ごみ清掃・
調査活動実施



留学生と日本人学生、インターナショナルオフィスの先生方が、自治体や地域の方々と一緒に、漁港や島など県内各地の海岸にて、海洋ごみ清掃および調査活動を継続的に行っています。地域の人々と交流しながら実際に海岸清掃を体験することで、プラごみ削減に向けた意識をもち、瀬戸内海の海洋ごみ問題に関する学びを深めるための取り組みです。

海洋ごみは収集後に、種類ごとに分別し、個数や重さを計ります。飲料用ペットボトルや空き缶、梱包資材などのプラスチックが多く、多い時には90kgも回収することもあります。

11月27日は、高松漁港周辺にて、SDGs目標14「海の豊かさを守ろう」に関連した授業に参加する学生、呼びかけに応じた学生、先生方が、市場や漁業組合関係者や地域の皆さんとともに活動しました。この日の活動は、本学、チェンマイ大学、国立嘉義大学、ブルネイ・ダルサラーム大学が合同で企画したもので、それぞれの活動を実施した後、オンラインで意見交換・交流会を実施しました。

04

各キャンパスにて大学祭開催！
2019年以来の一般開放も実施



香川大学祭(第74回)
「耀～かがやき～」
10月28日～30日(幸町キャンパス)
学生や地域の皆様方と交流することで、気づきや学びという大切な光を集めて一つの大きな「耀」を生みだしたいという想いがテーマに込められました。

アート作品展示やステージ発表、キャンパスコレクションやキッチンカー、模擬店出店などを行いました。

医学部祭(第43回)
「復活～医学部祭が帰ってきた！おかえり！～」
10月7日～9日(医学部キャンパス)
学内者限定
ステージ出演や各種コンテスト開催、各サークルは飲食以外の模擬店の出店を行いました。

讃工祭
10月29日(林町キャンパス)
オープンキャンパスと同時開催
学生団体企画展やステージ企画、宝探しやクイズラリーなどの地域の方々にお楽しみいただけるイベントを多数開催し、学内が活気に満ちあふれる一日となりました。

収穫祭
11月3日(農学部キャンパス)
オープンキャンパスと同時開催
「ハラル食」を提供するキッチンカーの出展、農場生産物や池戸会卒業生による花や野菜等の販売、学生企画や動物ふれあいコーナーなどの子ども対象イベントなど、盛りだくさんでした。

株式会社四電工 高松営業所
配電技術センター

技術1課

二宮 慧 (写真左)

KEI NINOMIYA
(2018年入社)

技術2課

久保田 萌 (写真右)

MOE KUBOTA
(2020年入社)

インフラ保守の現場から地域を守る

PROFILE

2人とも香川大学工学部材料創造工学科(当時)で学び、在籍期間が重なってはいないが同じ研究室の卒業生。研究室の同窓会で、入社を控えた久保田さんが「春から後輩になります」と二宮さんに自己紹介したのが初対面だった。どちらも休日はアクティブに活動するアウトドア派。



地域住民の声が 背中を押してくれる

入社のきっかけは？

久保田 もともと卒業後は、四国で働きたいと思っていました。その中でも、四電工はインフラ業界で安定感があること、工学部(当時)出身の先輩方が多く在籍していることなどが入社のきっかけとなりました。入社後1年目は工事課で現場作業を経験し、体力・精神力ともに鍛えられました。2年目から技術2課へ配属となり、電柱の新設・移設の設計、既存電柱の保守点検業務などを中心に日々業務を行っています。

二宮 私は合同説明会で人事担当者の雰囲気すごくよかったことが、入社のかげとなりしました。入社後は久保田と同様工事課、技術2課を経験し、5年目から技術1課へ配属となり主に現場や保守業務の取りまとめなどを行っています。配電部門では、私を含めた2人が初の女性社員なので、ロールモデルとしての役割も意識しています。

仕事のやりがいを 教えてください。

久保田 電柱は宅地内に建っていることがほとんどで、移設などの際は近隣のおうちに交渉や説明に回ることがあります。そういう時に「ああ、四電工ね」とすぐに受け入れてもらいやすく、現場作業でも気さくに声を掛けてくれたりして、地域密着の知名度があるんだなあと感じます。

二宮 地域の人たちからの「頑張りなよ!」という声は励みになりますよね。制

服を見て「息子が四電工のOBだ」と話しかけてくれた人もいました。現場作業は男性の仕事というイメージがあるせいか、珍しがられることも多いんです。事故や災害で停電などが起きた際は1課も2課も全員出動するので、私も現場に出ることがあります。現場近くに住む人たちが心配して見に来て声をかけてくださったり、電気が復旧した時に直接「ありがとう」とお礼を言われたりすることは、すごく仕事へのやりがいを感じられます。

大学時代の思い出は？

久保田 材料創造工学科を選んだのは、様々な分野を幅広く学べて、将来の選択肢が広がると思ったからです。大学で学んでいたことが今の仕事に直結しているわけではありませんが、研究を頑張る中で身につけた「決められた期間できちんと結果を出す」という姿勢は役に立っていると思います。

二宮 私は陸上部に所属して、週5ペースでがっつり練習に打ち込む大学生活でした。高い目標を持って頑張る先輩方との人間関係で学んだことは、社会人になっても私の中で生きていていると思います。

今の目標は？

久保田 仕事とプライベートの両立。現場を学んでいた1年目は、深夜や早朝、日祝での作業もあって文字通り仕事漬けの日々でしたが、技術課では当直を除くと規則正しい勤務スタイルでとても働きやすく、個人作業が多いのでスケジュールの調整もしやすい。当社は休暇制度がとても充実していて、有給取得にも積



極的な社風です。オフの時間がしっかりとれるからこそ、プライベートを充実させたいなと。また、もっと実務経験を積んで二級施工管理技士の実技試験をクリアするのも目標の一つです。



二宮 研修時にとれる高所作業車や玉掛け以外にも資格取得サポートが手厚くて、電気工事士や施工管理技士の資格取得を目指す際には研修所で講習なども受けられますから、自分でしっかり計画して合格を目指す人が多いですね。私は高松営業所に配属されてから約5年経つので、そろそろ規模や客層の違う別の環境も経験してみたい気持ちがあります。工事課の先輩方にも「営業所によって個性がある」と聞いていますし、要望を出すチャンスは毎年あるので、チャレンジしたいと思っています。



卒業生紹介

農業組合法人 香花園
代表理事

真鍋 佳亮

MANABE YOSHIKI

(農学部 2006年卒)

育てているのは、「人と人を結ぶ」花

PROFILE

1981年、香川県高松市生まれ。2000年に高松高校を卒業後、香川大学農学部生物生産学科・同・花卉研究室で学ぶ。大学3年次にはポルトガルやブラジル、スペインなどの花き農場や種苗会社で1年間の研修を積んだ経験も。2006年、卒業と同時に香花園で就農し、15年に理事、21年に代表理事に就任して現在に至る。

本当に喜ばれる花を 消費者に届けたい

3代続くカーネーション園 ECで新たな販路開拓も

当園は祖父の代からカーネーションをつくっていて、香川県オリジナル品種「ミニティアラ」の品種開発に携わるなど行政と連携するかたわら、地域の子どもの「花育」にも取り組んでいます。

園では、ミニティアラ8種をはじめ約30品種のカーネーションを育てています。虫害を防ぐとともに品質の安定を図るため、すべてハウス栽培で、温度管理などは全自動。それでも毎日の手入れは欠かせません。特にカーネーションは他の花に比べて手間がかかると言われます。しんどい時もありますが、花は手を掛けただけしっかり応えてくれるから、真面目に頑張ろうと思えます。

カーネーションには5月の母の日のイメージがあるかもしれませんが、実際にはニーズの高い時期ではありませんが、他にもいろんなシーンで活用されている花です。市場全体のトレンドも重要とはいえ、動向は毎年変化して読みづらい。特に新しい品種の開発には数年単位の時間がかかるため、トレンドベースではなくこちらから積極的に提案していくことも少なくありません。

私が自分で花を買うようになったのは、コロナ禍の直前くらいからです。花がある日常のうれしい喜びとともに、「贈る楽しみ」も実感しました。花の名前も結構覚ええましたよ。花屋の店頭でカーネーションを買う人に出会うと、生の声にも触れられたりして…。そういうところから自分なりに得たものを商品提案にフィードバックして、当園の花を「本当に求める消費者」のもとへ的確に届けたいと思っています。

近年はSNSも活用しながら、販売手法を工夫しているところです。当園の花は9割が花屋や市場を経由して世に出て行きますが、別の販路としてECサイトで直販も始めました。消費者と直接つながれるのは、我々にとって新しい展開です。とにかくやってみて、少しずつ手応えを探りながら広げていくつもりです。

地域に根差す大学を軸に 広がる交流の輪

祖父と父と私、3代にわたって香川大学のOBなんです。私は園を継ぐ前提で、香川でカーネーションをつくるのなら地元の大学で学ぼうと農学部に入り、「カーネーションの日持ち」をテーマに研究していました。今にして思えば学生時代はもっと視野を広く持って学んでもよかったなと反省もありますが、実験のやり方や試験方法の基礎をきちんと身につけ、科学的な視点で物事を判断する姿勢が育まれたことは、私にとって大きな財産です。卒業後も、カーネーションの栽培方法を試行錯誤しながら「勉強は一生大事だな…」と痛感しています。

今も11月の農学部の収穫祭では同窓会を通じて当園の花束を販売していますし、学生時代の先生や友人とは交流が続いています。時には仕事で支え合うこともあってすごく楽しいですよ。地域の人も香川大学に親しみを持ってくれているように感じますし、同じ香川大学のOBであることをきっかけに話が広がることもあります。地元の大学のいいところは、自分が根差す土地で出会いが広がり、そのご縁が卒業後も長く続くことではないでしょうか。

仕事は楽しんでこそ！ 農業は大変だけど面白い

農学部時代の友人に結婚式の花を用意してほしいと依頼された時の、「お前の花がええんや」という言葉は、今も私の原点です。私自身がきちんと納得でき、消費者にも「安心して買える」と信頼される花をつくりたい。誰かに贈られた花が、一生心に残る可能性もあるでしょう？ 生産者として、喜んでもらうためにできることを精一杯考えるのはとても大切なことです。

農業に限らず、どんな仕事も大変なのは事実です。でも、大変だけど面白いのが農業だな、と素直に思います。花づくりは、自分のつくったものを通じて人と人のつながりが生まれる、とてもいい仕事ですよ。経営者としては、スタッフの成長を実感するのもやりがいの一つ。何事も、楽しくないとダメ！というのが私の信条ですから、これからも自分たちにできることを、楽しんで続けていきたいですね。



Student Introduction

学生紹介

DRI教育は、分野を超えた興味関心の「入り口」

香川大学独自のDRI検定「アセスメントテスト」。

1100人を超える初回受検者の中で優れた成績を収めた田中さんに

受検を通じて学んだことを語っていただきました。

2検定ともマスター認定！ 長い目で役立つスキル

2022年8月1日、香川大学が進めるDRI教育の一環として、独自の学内検定「アセスメントテスト」が初めて実施されました。

DRI教育とは、DRI能力育成のための学士課程教育で、新しい価値創造を目指す人材を育てようという取り組みです。DRIは、イノベーションを創出する「デザイン思考」、レジエンスやセキュリティ等に資する「リスクマネジメント」、デジタル社会を生きるための「インフォマティクス」の頭文字。1年次からの全学共通科目として、さまざまな分野を網羅するD科目・R科目・I科目から興味のある授業を選べます。



その学修成果を確認するのがアセスメントテストです。今回は「リスクマネジメント検定」と「インフォマティクス検定」が行われました。それぞれ一定以上の成績を収めると「マスター」に認定されます。1年生全員と2年生以上の希望者1123人が受検したうち、リスクマネジメント検定マスターが34人、インフォマティクス検定マスターは22人。私は両検定でマスターに認定された5人のうちの1人として、11月に表彰も受けることができました。就職活動などで社会的な関心を引きそうだし、長い目で見てこれからの私にとって大切なスキルになっていくのではないかと思います。



田中 菜月(たなか なつき)
福岡県出身。美術系の経験が浅い分、スケッチや絵画、デザイン思考の授業に全力投入。他学部の分野も履修できる全学共通科目を「とてもいい」と語り、心理学など興味のある講義を積極的に選択している。

分野横断的な講義動画で 興味関心が広がった

アセスメントテストの受検者は、検定に先立って「リスクマネジメント(R)」と「インフォマティクス(I)」、それぞれ8回分の講義動画を視聴しておく必要があります。決まった時間に開講されるわけではなく、空きコマなどを活用して自分のペースで自由に視聴時間をつくれればいいというスタイル。計画的に視聴していく自己管理能力が問われることになり、何事も先延ばしにしがちな私は、他の授業の課題なども抱えて「間に合うのかな」と焦ったりも…。結局、検定直前でバタバタと履修したのは大きな反省点です。

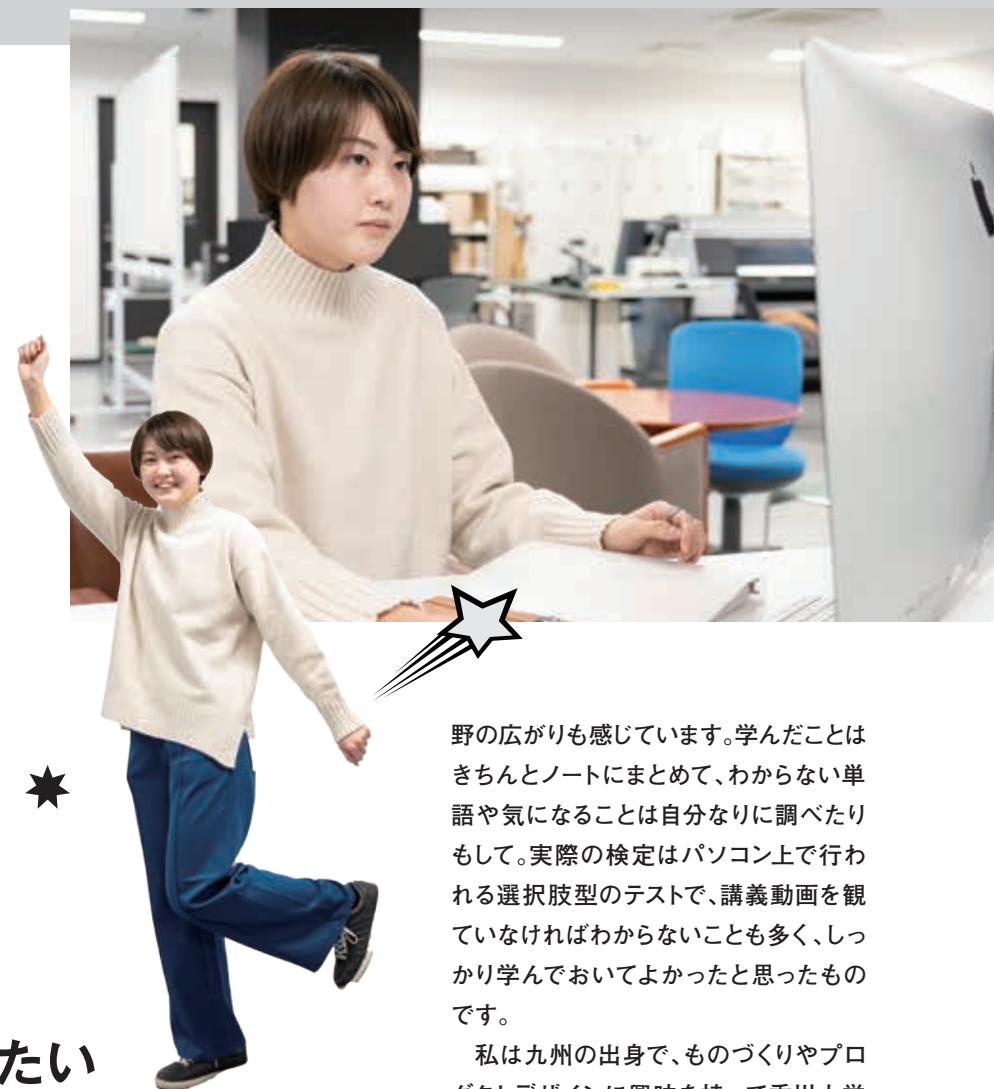
「リスクマネジメント」の講義動画は、いろんな学部の先生方がさまざまな分野のリスクマネジメントについて語るものです。他学部の先生に学ぶ機会は少ないので、とても楽しく受講できました。一方、「インフォマティクス」の講義動画は情報系の学びが中心。情報を扱うモラルをはじめ基礎から専門的な知識まで広く網羅していて、こちらも非常にためになりました。

動画を観ていてあらためて「知らないことが多いなあ」と実感する一方、ジャンルを横断した学びを通じて、自分なりに視

検定をきっかけに 可能性をもっと探りたい



他学部の講義を受ける 貴重なチャンスに！



野の広がりも感じています。学んだことはきちんとノートにまとめて、わからない単語や気になることは自分なりに調べたりもして。実際の検定はパソコン上で行われる選択肢型のテストで、講義動画を観ていなければわからないことも多く、しっかり学んでおいてよかったと思ったものです。

私は九州の出身で、ものづくりやプロダクトデザインに興味を持って香川大学の創造工学部に入りました。高校までは普通科で、美術を専門的に学んだわけではない私にとって、技術も座学もゼロベースで教えてくれる創造工学部のカリキュラムは魅力的でし、プロダクトデザイン以外のジャンルについても学ぶうちに興味関心がどんどん広がって、より広い視野で自分の可能性に気付けるようになりました。

それをさらに押し広げてくれたのが、DRI教育のカリキュラムです。幅広い分野の「入口」としての知識が身についた今のうちに、それを深めていく努力を続けたいですね。アセスメントテストをきっかけに、他の民間検定などにもチャレンジしてスキルを深めてみようかな、とも思っているんです。

みんなで防災! 2022 ～地域に繋げる防災の輪～



TwitterやInstagramやYouTubeでも
情報発信を行なっているので、ぜひご覧ください!!



防災士の資格を活かし 地域の防災力 up をお手伝い!

私たち香川大学防災士クラブは、大学祭をはじめとしたさまざまなイベントで、地域住民・学生を対象とした防災啓発活動を行っています。香川大学の防災に関する取り組みや防災に関する知識を地域住民・学生に発信することで地域や大学全体の防災力の向上を目指しています。大きな活動として2つの活動を行っています。1つ目は大学祭への参加です。2022年度は新型コロナウイルス感染症の影響もあり、非常持ち出し袋や非常食の展示を中心とした催しとなりました。その中でも、「大学生が考えた非常持ち出し袋のリスト」の配布がとても好評でした。2つ目はコミュニティセンターなどでの防災教室の実施です。頂いた依頼に合わせてその都度イベント内容を企画しています。2022年度は岡山県と香川県で合わせて4件の防災教室を行っています。活動を通じ防災士クラブに所属している学生自身も新たな学びや経験を得ています。



Bonsai☆Girls Project



高松盆栽の魅力を発信!
～女子大生ならではの視点で認知度アップを目指します～

Bonsai☆Girls Projectは、2012年に発足した学生プロジェクトです。高松市は松盆栽の全国シェア8割を占める名産地ですが、あまり知られていません。そこで、盆栽の一般的なイメージとは真逆の私たち女子大生が高松盆栽の魅力を発信することで、高松盆栽の認知度向上を目指して活動しています。具体的には、盆栽や苔玉作り体験ワークショップや盆栽に関するヒト・モノ・スポットを記事にしたフリーペーパーの発行、SNSによる情報発信などを中心に行っています。これからも地域のみなさんとの交流を大切にしながら、女子大生ならではの視点から高松盆栽の普及活動に奮闘していきます。

TwitterやInstagramやFacebookでも
情報発信を行なっているので、ぜひご覧ください!!



KADAI project

香川大生だからこそできる活動を紹介します!

第16回 わくわくコンサート

多くの方に音楽鑑賞の機会を
無料でのコンサート開催を目指して

わくわくコンサートは、様々な事情で演奏会に行く機会に恵まれない子どもたちや保護者の方々からの「音楽ホールでコンサートを聴いてみたい」という声をきっかけにスタートし、無料でのコンサート開催をめざして活動を続けています。今回のわくわくコンサートは、Recovery(復活・回復)とEU(欧州連合)をテーマに開催しました。また'R'も、もう一つのテーマで、EU加盟27か国の中で'R'を国名にもつ国を数えると21か国になります。プログラムは、2023年に生誕150周年を迎えたロマン派の作曲家 ラフマニノフが、病から回復して誕生させたピアノ協奏曲 第2番。没後100年にして復活をはたした J.S.バッハの作品から《G線上のアリア》は、20世紀に復活したリコーダーで演奏しました。またラヴェルのオーケストレーションで世界的な作品となった《展覧会の絵》は、ヨーロッパ各地が舞台となっており、「キーウ(キエフ)の大きな門」が終曲です。「EUの歌」となっている「歓喜の歌」にのせてラップもお楽しみいただきました。



創造工学部写真サークル RISE 写真部

創造工学部生が写真を通して香川の魅力を発信
B1 昇格を目指し奮闘するバスケットボールチームに密着

私たちRISE写真部は、創造工学部公認の写真サークルです。月に1回程度の撮影会のほか、不定期で写真展を開催し、日々技術向上に励んでいます。

本プロジェクトは、コロナの影響が大きい地域のスポーツチームに焦点を当て、写真を通して応援することを目的としています。

昨今のコロナによる影響により、地域スポーツは無観客での開催を余儀なくされ、また、私たちも活動の機会を失いました。このような社会情勢の中で、写真で地域に貢献したいと考えたことがプロジェクト発案のきっかけです。

具体的な活動内容としては、約半年間にわたりBリーグ香川ファイブアローズの撮影をさせていただき、最後にその写真を用いて写真展を開催します。写真展を通して、試合を見に行くきっかけになってもらえればと考えています。

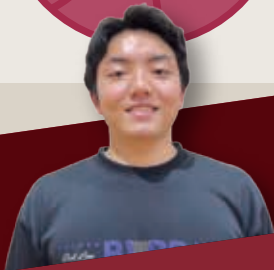
RISE写真部は、主に風景や街並みの写真を撮影してきたため、スポーツを撮影するのは初めての試みになります。また、写真展も自らギャラリーを借りて開催するのはこれが初めてです。感染対策を徹底し、皆さんに喜んでいただけるようなプロジェクトになるよう部員一同努めます。



バスケットボール部

活動場所 香川大学幸町キャンパス 第一体育館&第二体育館

27名
男14名 女13名
月、水、金、土日(不定期)
約3時間練習



男子キャプテン 谷本 杜和さん

大学バスケットはこれまでのカテゴリーに比べて体の強さや頭を使うことが大切になってきます。しかし、それらの根底にあるものはバスケットボールを大好きであるといった気持ちです。僕たちと一緒に全力でバスケットボールを楽しみませんか？プレイヤーとしてだけでなくマネージャーとしても興味がある方は是非、練習を見に来てください！



女子キャプテン 大下 悠逢里さん

私は小学生の時にバスケットボールを始め、大学では競技を続けるか迷っていました。しかし大学でバスケット部を見に行った時に、先輩方が自分たちで考えて練習している姿や、バスケットボールを楽しむ姿を見て、入部を決めました。入部を迷っている人も、ぜひ一度体育館を覗きにきてほしいです。一緒にバスケットボールをしましょう！



周りのサポートに感謝して活動しています！

こんにちは！香川大学バスケットボール部です。
バスケットボール部は、週4回、香川大学幸町キャンパスの第一体育館と第二体育館で練習しています。
男女ともに、他県に遠征をしたり、他県のチームに来ていただいたりしながら試合を重ね、最終的にはインカレ出場を目標に日々活動しています。
また、香川県の社会人リーグに参加させてもらったり、中高生と一緒に練習や試合をしたりと、大学生以外とのつながりも大切にしてレベルアップを目指しています。
昨年は新型コロナウイルスの影響で活動に制限がかかることもありましたが、今は制限も緩和され、新入生歓迎会や忘年会などのイベントも楽しく開催しています。
経験者が多いですが、大学からバスケットボールを始めた選手もいますし、途中入部をした選手もいるので、興味がある方はぜひ体育館を覗きにきてください。
バスケットボールがしたいという意欲がある人をいつでもお待ちしております！
勝利を目指しながらも、自分たちがバスケットボールを楽しむということを一番に活動していきます。応援よろしくお願いします。



男子

チーム一丸となって全力で頑張ります！



女子

女子は、ユニフォームが新しくなりました！

男子 Instagram / 男子 Twitter / 女子 Instagram / 女子 Twitter /



同窓会紹介

香川大学には学部ごとに同窓会があり、現在は7団体が活動しています。

農学部
池戸会
IKENOBOKAI



『池戸会』とは

香川大学農学部は、1903年(明治36年)に乙種農林学校として、池戸(いけのべ)八幡神社の境内で呱呱の産声を挙げました。同窓会の名称は、学制改革の後に、この地に因んで池戸会として名付けられて今日に至ります。

本会は、その前身校からの全卒業生と在学生、農学部現職員及び旧教員を以て構成されており、会員相互の情報交換と各地域の支部会を支援するための活動をしています。また、在学生に対する教育・就職支援、さらに会員相互の親睦を図るため「池戸会報」を毎年発行し全員に配布しています。



教育学部

松楠会
SYOUNANKAI



法学部・経済学部

又信会
YUSHINKAI



医学部医学科

讃樹会
SANJUKAI



医学部看護学科

木蓮会
MOKURENKAI



創造工学部

緑晴会
RYOKUSEIKAI



地域マネジメント
研究科
地域マネジメント
研究科同窓会



次号は医学部医学科「讃樹会」にスポットを当てます!!



会費納入のお願い

正会員

卒業生及び修了生(過去に在学した者を含む)、
各同窓会会員、役員及び教職員(現職、退職)

会費 20,000円
(終身会費)

準会員

在学生

会費 20,000円

※在学中に準会費として会費を納めた方は、
卒業後は正会員となり、改めて会費を納める必要はありません。

賛助会員

個人・企業・団体
(目的に賛同いただける個人・法人等)

会費 10,000円
(一口)

会員の皆さまからの会費を財源として支援事業を実施しています。未納の方は、校友会事務局までご一報ください。専用の払込票をお送りします。

住所変更のご連絡について

校友会からの会報やイベント等の情報を確実にお手元にお届けするために、卒業等により住所等の連絡先を変更された場合には必ず変更の登録をお願いします。

ご連絡はこちら

香川大学校友会 会員情報変更

検索



個人情報の取り扱いについて

香川大学校友会では、個人情報について適切な方法で取得・管理しており、会報送付など校友会からのご連絡以外での利用は行いません。なお、利用目的の範囲内で、香川大学または各同窓会に、取得した個人情報を提供することがあります。



香川大学校友会

〒760-8521 香川県高松市幸町1-1
香川大学校友会事務局

TEL:087-832-1985

E-mail: koyukai@kagawa-u.ac.jp

香川大学校友会

検索

